



Kodak

200万ページを出力しても NexPress には余力がありました。NexPress は、POP を中心とする店内演出物の制作用途にフル活用していきます。

2 台の Kodak NexPress が POP 印刷の受注拡大に大きく貢献。消費増税に伴う仕事量の増大と POP の売上倍増のために、生産性が一段と向上した最新機種への入れ替えを決断。

圧着ハガキでもトナーの剥離がないと NexPress の品質を高く評価

広島県福山市に本社を構える株式会社アスコンは、青山商事のグループ企業であり、流通小売業界に特化した流通小売支援企業として、企画から制作、印刷、加工まで一貫して手がける大手印刷会社である。事業領域はチラシ・DM 制作から POP など店舗演出販促ツールの制作、タウン情報誌の出版、さらには Web・映像制作、クロスメディア展開まで幅広い。なかでも売上の 60% 以上を占めるチラシは、日々数百種類を制作・印刷している。支店・営業所は全国 17 カ所、製造拠点はチラシ対応輪転機 4 台を擁する府中工場（広島県府中市）や、箕沖工場をはじめ全国 3 カ所に POP センターを構えている。チラシがメインの印刷会社として創業しながら、洋服の青山をはじめ、多店舗展開するスーパーやドラッグストア、ホームセンターなどに的を絞った流通小売業界密着型のビジネス展開で大きく成長してきた。

同社が初めて NexPress を導入したのは、2005 年のこと。導入の経緯について代表取締役社長である中原貴裕氏は次のように振り返っている。

「少数 DM のニーズが急増し、オンデマンド機の導入を検討していました。各社の機械で印

刷テストを実施したのですが、UV ニス圧着したハガキでも定着性が良く、トナー剥がれ無しに剥離できたのは、当時ではコダックの NexPress だけででした」

DM から POP まで少数・短納期の仕事に 2 台の NexPress が大活躍

NexPress の導入によって、それまでは非効率であってもオフセット印刷に回していた少数の DM も、コスト効率良く仕上げられるようになった。さらに DM だけではなく、POP など多種多様な仕事に NexPress が最適だと分かり、活用範囲は大きく広がっていった。POP 用途では厚紙への対応力や印刷サイズの大きさも高く評価された。導入当初から NexPress の運用を主導してきた生産管理課 業務課長の阿部眞成氏は次のように話している。

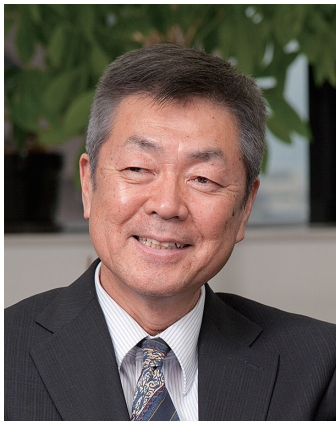
「NexPress なら、少数・短納期のオンデマンドの仕事のコスト効率良くスピーディに処理できます。お客様の新しい要望にも印刷サンプルを即座に出力して判断していただけるので、活用範囲はどんどん広がりました。また串刺し面付け機能を利用すれば、後工程での仕分け作業を簡略化することもできます」

たとえば商品陳列棚のレールに差し込む POP カードなどは、100 種類の商品を各 2 枚ずつで

50 店舗分といった発注も多いという。こうした煩雑な仕事も串刺し面付け機能を利用すれば、印刷した用紙束を断裁するだけで各店舗用のカード束が即座に出来上がる。これにより仕分けが簡略化できたため、納期も大幅に短縮できるようになった。こうしたオンデマンド印刷ならではの柔軟性をフル活用することで、2 台の NexPress は POP センターの中核機種となった。



代表取締役社長兼営業本部長 中原 貴裕 氏



箕沖製造部 部長 寺尾 忍氏



生産管理部 生産管理課 業務課長 阿部 眞成氏



箕沖POPセンターに設置されている2台のNexPress

最新機種のNexPress SXに更新して 膨れ上がるPOP需要に対応

同社がPOPの生産を本格的に開始してから今年で10年目。2005年に開設したPOPセンターも全国3カ所に増え、現在では全体売上110億円(2014年3月期)のうち15%近くを占めるまでに成長した。導入から7年が経ったNexPressに不満はなかったが、新機種への更新のニーズも生まれていた。契機は2014年4月からの消費税増税だった。流通小売業界ではプライスカードなどあらゆるPOPを全店舗で差し替えなくてはならない。駆け込み需要や買い控えに備えた各種キャンペーン用POPの需要も急増する。中原社長は当初、オンデマンド機のレンタルで急増するPOP需要へ対応しようと考えていたが、コダックからの提案や将来のことも考慮して最新機種のNexPress SXへの入れ替えを決断した。新機種の生産スピードはA4サイズで毎分100

ページと従来機の約1.5倍。中原社長は「スピードの違いは一目で分かった」と驚いている。「この生産性なら受注量が大幅に増えても大丈夫だ」と営業も安心したそう。従来は2台合計で月平均60万ページ程度だったが、入れ替え後の2014年2月から4月までは毎月100万ページを超える印刷で、特に3月は約200万ページという過去最高の印刷量を記録した。中原社長はこの実績を見て次のように喜んでいる。

「従来機では到底、対応できない受注量でした。ただ200万ページを出力しても、NexPressに余力はあったと感じています。最新機種でなければ、とてもこの消費税増税前の特需には対応できなかった」

POPの売上目標30億円を 支える確かな存在

新機種には最長914mmの長尺印刷が可能なロングシート オプションも装備された。箕沖製造部部長の寺尾忍氏は、この長尺印刷機能を次のように評価している。

「これまでオンデマンド印刷ではできなかった吊り下げ用の店内ポスターや長尺のPOPカードなどが印刷できるようになり、小ロットや在庫レス対応の提案の幅が広がりました。また、印刷サイズの制約から従来外注していたオフセット印刷の仕事も内製化でき、外注費の削減にも貢献しています」

阿部課長も新機種の印刷品質を「品質も向上しムラがなくなきれいだ」と評価している。同社では今後、POPセンターの受注量を当面の目標として30億円まで伸ばそうと考えている。こうした同社のビジョンについて、中原社長は次のよう

に話している。

「この売上目標を達成するために工場を改修し、オンデマンド印刷機も更新しました。NexPressはPOPを中心とする“店内演出物”の制作用途にフル活用していきたいと考えています。新しいNexPressなら、今後さらに小ロット・多品種化が進んでも難なく対応してくれると確信しています」

生産性と品質が向上し、仕事への対応力もさらに広がった新しいNexPressは、アスコンのビジネス拡大に今後も大きく貢献していくことは間違いないだろう。



プライスカードやポスターなど様々なPOP印刷にNexPressが活躍

株式会社アスコン



写真は箕沖工場

代表取締役社長：中原貴裕

本社所在地：

〒721-0964 広島県福山市港町1丁目15番27号
TEL：084-920-0111(代) FAX：084-920-0116
<http://www.ascon.co.jp/>

コダック 合同会社 グラフィック コミュニケーション事業本部

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-9 TEL.03-5577-1200
大阪：06-6105-9670 名古屋：052-746-1290 福岡：092-707-0180
仙台：022-290-2070 札幌：011-590-5070 金沢：076-200-9583
製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com
<http://www.kodak.co.jp>

Kodak